

第14回全国大会・総会

激変する社会における大学の未来を考える

本大会は、AI時代の到来を念頭に、様々な要因から変化する社会状況の中で、どのような人材が求められるのか、入口から出口までの質保証を踏まえつつ、大学教育のあり方を議論する大会とします。

大学生は、将来、AIへの対応、グローバル化、少子高齢化社会、SDGsによる企業の価値観の変化など、激変する社会の中で、働き、生活すると予想されます。これからの大学は、そのような社会で活躍できる人材を、学生の多様化がより進む中で教育する必要があります。今以上に少子化の影響を受け、基礎学力の担保が困難になり、入学前教育だけでは追いつかないかもしれません。また、ICT等を活用し、正課外で基礎学力を身に付けたり、専門知識のレベル差を吸収したりする必要も出るでしょう。

本大会は、様々な未来における大学の姿について、参加者と一緒に考える機会を提供いたします。

期 日 2018年（平成30年）8月27日（月）～8月29日（水）
会 場 創価大学 中央教育棟（〒192-8577東京都八王子市丹木町1-236）

基調講演

AIに置き換えられない人材を育成するためには

8月28日（水） 14:15～15:45（90分）

会場：創価大学内 ディスカバリーホール

講演者：新井紀子氏

国立情報学研究所 社会共有知研究センター センター長・教授
一般社団法人 教育のための科学研究所 代表理事・所長
人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトディレクタ

東京都出身。一橋大学法学部およびイリノイ大学数学科卒業、イリノイ大学5年一貫制大学院数学研究科単位取得退学（ABD）。東京工業大学より博士（理学）を取得。専門は数理論理学。数学以外の主な仕事として、教育機関向けのコンテンツマネジメントシステムNetCommonsや、研究者情報システムresearchmapの研究開発がある。

2011年より人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトディレクタを務め
2016年より読解力を診断する「リーディングスキルテスト」の研究開発を主導。

主著に「ハッピーになれる算数」「生き抜くための数学入門」（イーストプレス）、「数学は言葉」（東京図書）、「コンピュータが仕事を奪う」（日本経済新聞出版社）、「ほんとうにいいの？デジタル教科書」（岩波書店）、「AI vs 教科書が読めない子どもたち」（東洋経済新報社）など。

